

# 男前な活き方

一枚方市

## 倒産から「枚方ビオルネ」を再建へ

その日は、いきなりやって来た。2010年9月6日、「株式会社ビオルネ」が、民事再生法の手続きを大阪地裁に申請し、倒産したのだ。

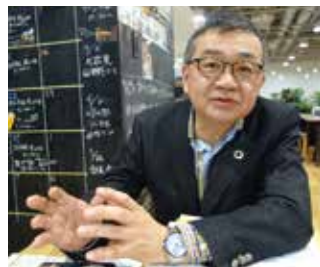
当時、再建対策について岡部宏明さんは、個人的に相談を受け、東京在住だったにも関わらず、約半年間、東京と枚方を往復。ボランティア精神に満ちた岡部さんらしい行動だった。

翌11年2月1日、現行経営者による再生計画が承認されず、管財人のT氏とともに、出資会社や大手不動産など売却先の

情報交換を何度も重ねて再生計画を検討。その渦中、権利者でビオルネ経営陣の一人が近隣施設に転出。その上、最大権利者の企業が過去の管理費の

過払いを主張し、電気代の支払いを止めるというダブルパンチに、T管財人は再生を断念し、民事再生手続き廃止を決定した。だが、当時のビオルネ管理組合理事長U氏とテナント协会会长O氏がビオルネの閉鎖を食い止め、組合の自主運営で継続営業をする事となった。

3ヶ月の猶予期間に運営再生プランを任された



枚方パートナーシップズ株式会社  
代表取締役  
岡部宏明さん(61)

枚方市岡本町7-1 枚方ビオルネ  
☎072-800-1919

岡部さんは、当時の波乱の日々を思い起こす。

「UさんとOさんには、区分者から運営拠出金という名目で一時運営費を集めていただきました。ですが、有力なスポンサー契約は結ばれず、運営会社を自ら立ち上げる道しかなく、私が枚方パートナーシップズ株式会社を設立。社長に就任しました。」

を機に「枚方ビオルネ」に屋号を変更した。岡部社長は、第三セクター破綻再生成功モデルの実現を自らに課し、企業所有区分の権利を購入して地盤作りに着手した。

「お世話になった方々と枚方にお住まいの方たちのために、枚方ビオルネがどう貢献できるかがこれからの課題。枚方駅前および京街道の活性化に取り組み、今の子どもたちや住んでいる人たちが自慢できるような街にする。私は枚方育ちではありませんが、私の周りには枚方で育ち、地元愛の強い社員や仲間がたくさんいます。彼らといつ

も熱い議論を交わし、大いに楽しく語り合っています。枚方市駅前には、商業×公共をテーマに、枚方ビオルネだけでなく枚方市を愛するみなさんをついでできる活動もしていきたい。繋げることは、私の使命感を満ち溢れさせます。『いいよね！ビオルネ！』をキャッチフレーズに、脱商業施設ニューパブリックモールを目指す。岡部社長のアイデアの泉は枯れることを知らない。そのハートは「永遠の少年」のままだ。



コワーキングスペースで若者支援